

## 12. 地学ワンポイント2 汚染される地下水

藤縄克之著

共立出版（1990）

B6 判新書判 p.114

本体価格 1340 円+税 40 円



---

## 目次

序文

### 第1章 有機塩素系溶剤による地下水汚染

- 1.1 汚染の実態
- 1.2 溶剤の水質基準と性質
- 1.3 溶剤の用途とその行方
- 1.4 大気汚染との関係
- 1.5 有機ハロゲン系化合物の地層中における挙動

### 第2章 ローカルな地下水汚染

- 2.1 地下水汚染をもたらす要因
- 2.2 身近にもある汚染源

### 第3章 地下水のすがた

- 3.1 循環する水
- 3.2 地球上の水収支
- 3.3 地下水の賦存形態
- 3.4 地形・地質と地下水

### 第4章 地下水の流れ

- 4.1 地下水の流速
- 4.2 水頭のちがいによる流れ
- 4.3 密度のちがいによる流れ
- 4.4 地下水の流れに影響をあたえる要因

### 第5章 汚染物質の移動と変化

- 5.1 物理的作用
- 5.2 科学的作用
- 5.3 生物学的作用

### 第6章 地下水の利用と保全

- 6.1 資源としての地下水
- 6.2 地下水汚染調査とコンピュータによる地下水管理の基本
- 6.3 地下水の水質管理をめぐって

参考文献

---

## 地下水ブックガイド

### 紹介コメント

米シリコンバレーなど国内外で1980年代に発生したVOCs地下水汚染を機に刊行された地下水と汚染の基本を紹介する解説書である。刊行から時間は経過したが、3～4章は地下水の基本を学ぶ上で、「6.3 地下水の水質管理をめぐって」は未来の地下水資源を展望する上で、現在も通用する内容となっている。当時の社会的な関心事であったVOCsに限定されず重金属、農薬、放射性物質や、身近な酸性雨、し尿浄化槽といったものまで汚染源を総括的に取り上げている。汚染を発生させず永続的な保全を実現するためにも、単なる過去事例としてのみならず、未来へ継承すべき教訓として捉えることができる。汚染とは無縁でも、地下水を取り巻く各項目の概要が包括的に紹介されているので、非常に理解しやすい。